

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和6年度10月号

○ 概要

- (1) 令和6年度10月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,179億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.7%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,308円（伸び率+1.9%）であった。（→P.1,2）
調剤医療費の内訳は、技術料が2,001億円（伸び率+4.1%）、薬剤料が5,165億円（伸び率+3.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,037億円（伸び率+5.2%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,210円（伸び率+0.9%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.83種類（伸び率+2.1%）、27.2日（伸び率+1.6%）、68円（伸び率▲2.7%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,019億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+105億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の781億円（伸び幅+42億円）で、伸び幅が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の+42億円（総額781億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,019億円 (+105億円)	39 その他の代謝性 医薬品(781億円)	21 循環器官用薬 (559億円)	42 腫瘍用薬 (553億円)
0歳以上 5歳未満	20.1億円 (▲1.2億円)	44 アレルギー用薬 (5.7億円)	22 呼吸器官用薬 (4.2億円)	61 抗生物質製剤 (3.3億円)
5歳以上 15歳未満	105.3億円 (▲4.5億円)	44 アレルギー用薬 (33.6億円)	11 中枢神経系用薬 (28.3億円)	61 抗生物質製剤 (8.6億円)
15歳以上 65歳未満	1,501億円 (+45億円)	39 その他の代謝性 医薬品(291億円)	11 中枢神経系用薬 (283億円)	42 腫瘍用薬 (181億円)
65歳以上 75歳未満	824億円 (▲19億円)	39 その他の代謝性 医薬品(193億円)	42 腫瘍用薬 (150億円)	21 循環器官用薬 (129億円)
75歳以上	1,568億円 (+85億円)	39 その他の代謝性 医薬品(289億円)	21 循環器官用薬 (259億円)	42 腫瘍用薬 (219億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,308円（伸び率+1.9%）で、最も高かったのは高知県（11,211円（伸び率+1.2%））、最も低かったのは佐賀県（8,288円（伸び率+5.8%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは徳島県（伸び率+6.5%）、最も低かったのは石川県（伸び率▲0.9%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	90.1 %	+5.3 %
薬剤料ベース	20.1 %	+0.3 %
後発品調剤率	82.7 %	+1.7 %
（参考）数量ベース（旧指標）	62.0 %	+1.7 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+5.2 %	+11.8 % (15歳以上 20歳未満)	▲3.3 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.1 %	30.7 % (100歳以上)	13.9 % (15歳以上 20歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	90.1 %	92.6 % (100歳以上)	88.7 % (80歳以上 85歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	875 億円 (+38 億円)	21 循環器官用薬 (265 億円)	11 中枢神経系用薬 (158 億円)	23 消化器官用薬 (104 億円)
0歳以上 5歳未満	8.0 億円 (+0.0 億円)	44 アレルギー用薬 (4.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	62 化学療法剤 (0.5 億円)
5歳以上 15歳未満	22.6 億円 (+1.5 億円)	44 アレルギー用薬 (12.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.2 億円)
15歳以上 65歳未満	308 億円 (+14 億円)	11 中枢神経系用薬 (73 億円)	21 循環器官用薬 (73 億円)	44 アレルギー用薬 (34 億円)
65歳以上 75歳未満	174 億円 (▲3 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	23 消化器官用薬 (22 億円)
75歳以上	363 億円 (+26 億円)	21 循環器官用薬 (126 億円)	11 中枢神経系用薬 (59 億円)	23 消化器官用薬 (53 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,344 円	1,737 円(北海道)	1,163 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.4%	+9.8 % (徳島県)	+1.1 % (山形県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	90.1 %	93.9 % (沖縄県)	87.3 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.1 %	22.2 % (山形県)	17.9 % (京都府)
後発医薬品調剤率	82.7 %	86.0 % (福島県)	79.7 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	62.0 %	66.6 % (沖縄県)	59.0 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度10月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。